

事業 046	事業名	社会体育施設(七美幼児プール)				担当部署	部名	教育委員会
	事業名	(社会体育施設等維持管理費)					課名	生涯学習・スポーツ課
事業期間		開始年度	昭和 61 年度	終了年度	-	電話	59 - 8093	
総合計画	施策の大綱	第 2 部 だれもがいきいきと輝くまち				予算科目	会計	一般会計
	政策名(章)	第 2 章 だれもがきらめくまちづくり					款	教育費
	施策名(節)	第 3 節 スポーツ・レクリエーションの振興					項	保健体育費
	実施計画掲載	無		個別計画			目	体育施設費
根拠法令・要綱等		射水市体育施設条例						

事業目的	対象施設利用対象	七美幼稚園児					
	意図施設設置目的	旧七美小学校と海老江小学校が統合し東明小学校となる条件として、地元要望により幼児プールを設置した。					
事業内容	手段施設が実施する主な活動	・幼児用プールの開設 7月下旬～お盆前までの約3週間開場している。開場時間は午前10時～12時、午後1時～3時、但し気温が低い日、降雨、雷雨の場合は閉場している。					

補助金事業	類型区分						
	補助内容	補助区分	算出方法(対象経費・基準単価・補助率・上限額等)				

施設管理運営事業	施設名	七美幼児プール			管理形態	市直営	
					指定管理者名		
	構造・階数	軽量鉄骨造(附属棟(更衣室))			指定管理期間		
	建築年度	昭和 61 年度	改修年度	-	類似施設状況	県施設 1	市施設 1
	耐震の有無	有	延床面積	39.55 m ²	民間施設状況	無	
設備・規模	10mプール、男女更衣室						

施設等整備事業	総事業費	財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
	整備内容						

その他	特記事項等						
-----	-------	--	--	--	--	--	--

事業	046	事務事業名	社会体育施設(七美幼児プール)	担当課	生涯学習・スポーツ課
----	-----	-------	-----------------	-----	------------

成果指標	指標名	単位	H23年度 実績	H24年度			H25年度 目標・見込
				目標・見込	実績	達成率	
成果指標	利用者数 設定できる場合 (利用者数)	人	280	200	228	114.0	200
活動指標	利用可能日数	日	13	12	12	100.0	12

		平成23年度決算	平成24年度決算	伸率	平成25年度予算	
事業費・人件費	事業コスト	直接事業費	444 千円	491 千円	10.6	463 千円
		うち臨時職員人件費	千円	千円		108 千円
		正規職員人件費相当額	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	29 千円	29 千円	0.0	29 千円
		事業コスト計	677 千円	724 千円	6.9	696 千円
		財源内訳	国 県 支 出 金	千円	千円	
		施 設 使 用 料	千円	千円		千円
		そ の 他	1 千円	1 千円	0.0	千円
		一 般 財 源	676 千円	723 千円	7.0	696 千円
		当 該 事 務 従 事 職 員 数	正規職員	0.03 人	0.03 人	0.0
		臨時職員	人	人		0.05 人
	利用者 1 人 当 たり コ ス ト	2.42 千円	3.17 千円	31.3		
	うち一般財源ベース分	2.41 千円	3.17 千円	31.4		

評価項目	点数	説 明
必要性	1	極めて限られた地域の幼児対象であることから必要性に乏しい。
有効性	2	近隣に海竜スポーツランドのプール施設もあり重複している。
達成度	4	利用者数は、当初の見込みを上回った。利用日数については、当初の予定通り開場した。
効率性	3	現在、必要最低限の経費で開場しており、今以上の効率性は望めない。

評価結果 (1次)	C	施設の在り方の見直しが必要	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
廃止の方向に向けて、地元関係者と協議する。				

事業 054	事務 事業名	図書館活動推進費				担当 部署	部名	教育委員会
							課名	生涯学習・スポーツ課(図書館)
						予 算 科 目	電話	57 - 4646
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-		会計	一般会計
総合 計画	施策の大綱	第 2 部 だれもがいいきと輝くまち					款 項 目	教育費
	政策名(章)	第 2 章 だれもがきらめくまちづくり						社会教育費
	施策名(節)	第 1 節 生涯学習活動の推進						図書館費
	実施計画掲載	有	17 頁	個別計画	子どもの読書生活充実プラン			
根拠法令・要綱等		図書館法						

事業 目的	対象	誰を・何を	全市民、市内在勤者・在学者					
	意図	どのような状態に	利用者要望に適応した資料整備及び郷土資料、専門資料の収集・整理保存					
事業 内容	手段	どのような方法で	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な図書資料を計画的に選書、購入をはかり、市民の財産として保管、保存するとともに市民の利用に供する。 ・収集した図書資料の利活用を図るため各種講座を開催し生涯学習支援を行う。 ・国会図書館及び東海北陸地区県立・指定都市立図書館資料相互貸借協定による相互貸借を活用する。 ・市広報誌の図書館コーナーや図書館ホームページの中での情報提供を行う。 					

補助 金 事業	類型区分						
	補助内容	補助区分	算出方法(対象経費・基準単価・補助率・上限額等)				

施設 管理 運営 事業	施設名					管理形態		
						指定管理者名		
	構造・階数					指定管理期間		
	建築年度	改修年度				類似施設状況		
	耐震の有無	延床面積				民間施設状況		
設備・規模								

施設 等 整備 事業	総事業費	財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	整備内容						

その他	特記事項等	<p>中央図書館以外の地域館については正規職員が館長代理1名体制であり、正規職員不在時の対応が必然的に必要となる。 臨時職員：中央8名、新湊5名、正力4名、大島4名、下村8名(清掃含む)。 臨時職員賃金は図書館管理運営費で支出。</p>
-----	-------	--

事業	054	事務事業名	図書館活動推進費	担当課	生涯学習・スポーツ課(図書館)
----	-----	-------	----------	-----	-----------------

成果指標	指標名	単位	H23年度実績	H24年度			H25年度目標・見込
				目標・見込	実績	達成率	
成果指標	利用者数 設定できる場合 (貸出人数)	人	133,245	133,245	129,460	97.2	130,000
	図書館行事参加者数	人	3,927	3,927	3,910	99.6	3,910
	貸出冊数	冊	542,820	542,820	527,533	97.2	530,000
活動指標	蔵書数	冊	398,630	408,000	400,921	98.3	410,000
	貸出用図書購入冊数	冊	9,490	10,000	9,821	98.2	10,000
	ボランティアグループ登録団体数	団体	5	5	5	100.0	6

		平成23年度決算	平成24年度決算	伸率	平成25年度予算
事業費・人件費	直接事業費	7,317 千円	17,409 千円	137.9	17,322 千円
	うち臨時職員人件費	0 千円	0 千円	-	0 千円
	正規職員人件費相当額	35,224 千円	47,124 千円	33.8	41,548 千円
	退職手当引当金相当額	4,921 千円	6,584 千円	33.8	5,805 千円
	事業コスト計	47,462 千円	71,117 千円	49.8	64,675 千円
	財源内訳	国 県 支 出 金	0 千円	0 千円	-
	そ の 他	0 千円	70 千円	皆増	0 千円
	一 般 財 源	47,462 千円	71,047 千円	49.7	64,675 千円
当該事務従事職員数	正規職員	5.18 人	6.93 人	33.8	6.11 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	-	0.00 人
利用者1人当たりコスト		0.36 千円	0.55 千円	54.2	
	うち一般財源ベース分	0.36 千円	0.55 千円	54.1	

評価項目	点数	説 明
必要性	3	市民ニーズに対応することはもとより、地域に密着した市民施設として郷土資料や専門書の収集・保管にも努め、様々な情報提供を行うことにより、市民の生涯学習の推進に重要な役割を担う。
有効性	4	個人では入手できない規模の資料を共同利用し、幼児から高齢者まで幅広く多くの方が読書を行い、また、調査研究・学習の場として利用している。
達成度	3	インターネット等の情報端末の進化により、一部の貸出しについては減少していると推測されるが、引続き計画的な図書購入を図り、良質な蔵書を保管、提供することに努めたい。
効率性	4	図書館相互貸借、インターネット予約、市内5館のネットワークシステムにより、限られた予算での蔵書を効率よく活用している。

評価結果 (1次)	A 現行(計画)どおり事業を進めることが適当	評価結果 (2次)	B 事業の進め方の改善が必要
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)		評価委員会のコメント	
<p>地域に密着した生涯学習施設として引続き運営を行うが、利用者数、狭あい性(正力・大島)、施設の老朽化を考慮し、今後の在り方について検討する。</p>		<p>文部科学省の「目指すべき目標値」を上回るよう、登録者数を増加させる方策を講じられたい。 また、本市の厳しい財政事情や今後の人口減少を十分踏まえ、図書館機能の集約や民間活力の導入も含めた運営体制などについて、あらゆる角度から検討・検証し、本市の図書館のあるべき姿、将来像を早急に示されたい。</p>	